

第7回道南いさりび鉄道沿線地域協議会 議事録

日時：令和7年1月30日（木）11:00～11:50

場所：函館北洋ビル 8階小ホール

（開会挨拶）

《齋藤局長（道）》

- ・ 本日は、道南いさりび鉄道の第2次経営計画（素案）を協議いただきたくお集まりいただいたところ。いさりび鉄道の経営に関しては、開業当初から関係者の共通認識として非常に厳しい予測を持ちながらも、日常を支える公共交通機関として事業者と沿線自治体が協力する中、令和7年度で開業から10年を迎える。
- ・ 10年間にわたって鉄道事業を安定的に継続していく中では非常に多くの困難・課題があったが、昨年9月に現経営計画の検証を行い、新たな経営計画の策定を進めていくという理解の下、会社で鋭意、策定に向けた検討に着手され、本日、その素案について沿線自治体にご説明をいただくこととしている。
- ・ いずれの交通事業者も本当に経営が厳しく、事業者からは、中長期的な経営予測を行うことは非常に難しい、2年先の計画を示すことも難しいという声も寄せられている。その中で、新たな経営計画は5年間にわたる中期的なものに至っており、沿線自治体の皆様には大きな関心を持って、柔軟かつ幅広い観点からご助言いただいていたものと認識している。
- ・ 本日、素案の内容について、この協議会全体として率直に意見交換をさせていただき、この計画を早期に成案化できるように気を引き締めて、皆様と一体となって取りまとめていきたいので、よろしく願います。

1 議題

（1）道南いさりび鉄道 第2次経営計画（素案）について

資料に基づき、川越社長（道南いさりび鉄道）から説明。

《齋藤局長（道）》

- ・ 計画については、課題の捉え方とその対応、また、厳しい収支見通しにならざるを得ないことなどがしっかりと網羅されており、これまでのご努力、ご苦勞に敬意を表する。
- ・ この計画に関する素案について、協議会として検討を進めていく上で、沿線市町からのご意見を伺いたい。
- ・ 冒頭、道としての意見を申し上げさせていただくが、この第2次経営計画は、鉄道の安全・安定運行を最優先に、今後、必要な設備投資や事業継続に向けた要員の確保、特に会社設立当初から社員のプロパー化は大きな課題であったが、そうした体制整備の精査に主眼を置かれており、道南いさりび鉄道が地域の要請に応えることができるよう、我々協議会も精緻な収支予測の検討を慎重かつ丁寧に進めていくことを前提としてきたところ。
- ・ この間、協議会で昨年7月に計画骨子案が説明され、会社としての決意や経営理念、目標などがしっかりと示されたものと認識。

- ・ こうした経緯を踏まえた中で、本日、説明のあった素案については、骨子で事前に示された諸課題への対応策についても、鉄道の安全性を最優先としつつ、必要な設備投資計画や人材確保によるプロパー化の推進と育成強化への取組が盛り込まれており、また、運賃の見直しや車両・運行本数の削減といった厳しい自助努力も反映されており、収支改善の取組も踏まえた収支予測がしっかり示されているものと受け止めている。
- ・ 今日の協議会ではこの内容で預からせてもらうが、骨子からより具体的な内容になっており、必要かつ十分な肉付けがされていると考えている。こうした認識の下、昨年4月に協議会で定めた基本方針に基づき、皆様と協力して十分に精査しながら、計画の策定に向けて、幹事会など場を問わず精力的に対応させていただきながら、できるだけ速やかに成案となるべく、しっかりと取り組んでいきたい。

《佐藤副市長（函館市）》

- ・ 社会情勢が刻々変わる中、予見し難い要素も多々あったと思う。計画の策定にあたり大変なご努力をされたことに感謝申し上げます。
- ・ 道南いさりび鉄道においては、これまでも地域住民に欠かせない生活の足として、また、道南の観光振興や北海道・本州間の物流ネットワークの一部として重要な役割を担っていただいている。道南地域の人口減少が進む中で、施設等の老朽化、あるいは高騰が続く物価、人口減少の影響による人材確保難など、一朝一夕で解決することが難しい問題ばかりであるが、本計画に沿って着実に対応していただき、安全かつ安定的な運行の確保に繋がることを切に希望しているところ。
- ・ 市としては、道南地域を面として捉えたときに、本市及び道南の観光ブランド力を高めることが必要だと思っている。プロモーション、あるいはフィルムコミッションといった機能を十分に発揮し、沿線自治体の皆様と協力しながら、交流人口の拡大を図り、インバウンドを含めた観光客の皆様に利用していただけるよう繋げていきたいと考えている。
- ・ 協議会の一員としては、北海道を始め、北斗市、木古内町と連携を密に図りながら、引き続き、いさりび鉄道の利用促進や収支改善の方策などについて、市としても検討・協議をしていきたいと考えているので、今後ともよろしく願います。

《工藤副市長（北斗市）》

- ・ 素案のとりまとめにあたっては、不確定要素がある中、ご苦勞があったと思う。そのようなことも含めて、本日、お示しをいただきお礼を申し上げます。
- ・ 市としては、素案全体を通しては現時点で整理いただくべき点については、全て網羅されていると理解しているので、素案の内容について特段の指摘すべき点はない。
- ・ その上で1点、最終ページにある「2031年度以降に向けて」について、いさりび鉄道を取り巻く経営環境から、経営計画が5年間であり「本計画の経営期間中から重要課題への対応を進める」と考えが示されている。
- ・ ここで触れられている重要課題等への対応については、利用者目線からしてもできる限り速やかに、スピード感をもって検討を進めることがこの協議会に求められるところだと考えており、今後の当協議会の運営、開催に際しては、その点を十分に踏まえていただくようお願いいたします。

願いたい。

《齋藤局長（道）》

- ・ 北斗市から、整理すべき事項が網羅されているという重い受止めを示していただいた。また、2031年度以降に向けて、利用者目線に立っていくという点は絶対に外すことが出来ないと認識している。
- ・ 経営計画の素案では、2031年度以降に向けた取組や課題なり方向性、認識などが書かれているが、今回の計画を策定して終わりではなく、より長期的な目線に立ち、今、捉えられる課題をしっかりと我々の中で認識し、次の計画をどうしていくかという議論もある。そのときに、私も含めてこの立場にはいないのが現実的。この計画を策定した我々責任ある立場の者が、その先のことについてももしっかり明記をしているということが、経営の厳しさはあるものの今後の見通しを確かなものにすると考えている。利用者目線に立ち、スピード感をもって対応していくというのは共通の認識として対応していきたい。

《羽沢副町長（木古内町）》

- ・ まずは計画の策定に向けた取組に大変感謝申し上げる。
- ・ 木古内町において、道南いさりび鉄道は町民の足として最も重要な交通機関と位置付けており、町には高校がないため、どうしても他の市町へ通学するための欠かせない路線となっているので、今回、示された素案に基づき、今後も安全かつ安定的な運行が継続できるよう、沿線自治体として最大限の協力をしてまいりたいと考えている。
- ・ 一方、沿線市町の人口減少に伴う利用者の減少は避けられない状況だが、観光利用の増加に向けて地域全体で誘客促進を進める必要がある。そのため、道南いさりび鉄道地域応援隊をはじめ、沿線地域との連携をさらに強化し、共に利用者の増加を図りたいと考えている。
- ・ また、当町からの要望として、収支改善の一環として運行本数の34本から31本への削減が検討される中で、町としては学生利用が非常に多いため、利便性に配慮した見直しが行われるよう、慎重な協議をお願いする。

《齋藤局長（道）》

- ・ 素案に対する各自治体のご意見をいただいたが、ご意見を踏まえ、社長からご発言いただきたい。

《川越社長（道南いさりび鉄道）》

- ・ 繰り返しになるが、大変厳しい経営状況の中、地域鉄道としての役割、また物流基盤としての役割など、会社一丸となって果たしてきた。この先の5年間と、その先も見据えてその役割を果たしていけるように、本計画に基づきながら進めていきたいので、素案の精査についてよろしく願います。

《齋藤局長（道）》

- ・ 社長を含め、ご発言いただいた内容をもって、この素案について収支予測や設備投資など

をしっかりと精査した上で、今後、協議を進めていくという方向性を確認したいが、よろしいか。

(異議等無し)

- ・ 年度内には議会や当初予算などがあるが、スピード感をもってしっかりと協議を進めていきたいので、引き続き、ご協力をお願いする。

(2) その他

《斎藤局長(道)》

- ・ 次に議題の「その他」であるが、資料を用意していないが道からご提案をさせていただく。
- ・ 社長から説明があったが、今後の5年間においても厳しい収支予測が見込まれる内容になっている。今後、精査させてもらうことになるが、函館市からもあったとおり、地域における役割を踏まえ、鉄道事業の安定化を図り、計画の取組を確かなものにするためには、社長からも要請があったが、欠損の補てんや設備投資に対して行政側からの支援が不可避であることは我々の共通認識と考えている。計画の成案に向けて検討を進めていく中で、協議会として、現計画の検証を行い、会社に対して精緻な収支予測の検討を求めることを基本方針として、主体的な対応を求めてきた。
- ・ こうした経過に鑑みると、計画の素案は十分な肉付けがなされていると考えているが、現経営計画にも位置付けられ、また、検証時にも明らかにしている道と沿線市町の負担割合の見直しについては、関係者間において共通の課題として認識があるものの、未着手の分野ともなっているところ。今後、計画の精査を進めて行く中で、この負担割合の見直しの協議を避けることなく正面から協議をしていくことが、計画の信用度を確かなものにするのではないかと考えている。
- ・ 道としては、こうした考え方をもちつつ、具体的には、地域の旅客運送サービスの持続可能な提供の確保に向けては、その責任と負担について道と沿線市町が同じ目線を持って、それぞれ主体性を発揮していく観点から議論ができないだろうかと考えている。今後、協議を進める上で何を土台とするかは、後日、議論のベースになるものを示し、協議会の場で検討させていただきたい。現計画や検証に負担割合の見直しが明記されていることを踏まえ、協議していくことについて確認させていただきたい。

(異議等無し)

- ・ 北斗市副市長からもあったとおり、将来を見据えた重い課題もある中で、新しい経営計画を始める前に、積み残しの課題として計画に書いてあるものについて、結果は別にして責任を持って対応していくことが地域の鉄道として持続的なものになっていくと考えているので、引き続き、丁寧な協議をしていきたいと考えているのでよろしく願います。

以上